
事業報告書

2020

学校法人 工学院大学



CONTENTS

事業の概要	3
I. 大学・大学院	3
II. 附属中学校・高等学校	6
III. 学園全体	7
財務の概要	9
法人の概要	11
DATA FILE	15

I 大学・大学院

1 21世紀型の工学教育の実践とその改革

1.1 21世紀型の工学教育プログラムの推進

1.2 国際・教養・キャリア教育（科目）の整備、強化

2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、急遽遠隔授業にて学生への学びを提供する準備を行いました。遠隔授業の実施に際し、学内通信量の問題、学生個々の通信機器・環境の問題、及び教員の授業コンテンツ準備等、数多の課題に直面しましたが、教職員一丸となって尽力し、前期授業を遠隔にて5月11日（月）より開始しました。

実験・実習科目については、十分に感染対策を施した上で、8月27日（木）より夏期特別授業として敢行しました。その中で、学生の出席は任意とし、遠隔でも同様の学修成果を得られるよう、それぞれの授業を構築しました。

文部科学省の方針を受け、後期からはオンデマンド型の遠隔授業も導入しました。各授業科目の成績評価については、対面での試験実施で準備を進めました。しかし、年末年始の急激な感染拡大により適わず、遠隔でのテスト実施等へ評価方法を切り替えました。

また、2019年度に先進工学部機械理工学科に新設されたエンジニア・パイロットの養成を掲げる航空理工学専攻では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、第1期生の学生たちの操縦訓練は8か月遅れで始まりました。学生たちは、2021年2月に渡米し、約8か月間の飛行訓練を経て9月に帰国予定となっています。

1.3 大学院の拡充

先進工学部大学院接続型コースは、さまざまな分野を指向しつつも、より深く探究することに興味を持つ学生を積極的な受け入れを目指し、今年度より設置しました。1年次には本コースの特長を積極的に周知するために、研究室見学などを研究への意識づけを積極的に行うことを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、コース生への働きかけが思うよういかない中、教員によるWEB（一部対面）での面談を実施し、履修イメージを定着させるべく対応しました。

1.4 学生支援プログラムの一層の充実

就職支援においては、今年度より「大学・大学院での学び、専攻を活かしたキャリア形成・就職支援」を支援方針としてプログラム構成を行っています。コロナ禍での大学内への入構制限や企業の採用活動の変化に即座に対応すべく、全ての就職支援プログラムをオンラインで実施し、学生参加率も前年度を大きく上回る実績となりました。5月から各クォーターで「就職ガイダンス」を開催し、その期間中の行動計画が立てられることを到達目標に設定しました。従来の方針にとらわれることなく、学生の進路・キャリアにおける積極的な支援を実施しました。

また、学生のキャンパスライフを盛り上げるべく、新入生へのメッセージ動画のホームページへの掲載や「オンライン新歓in Zoom」を開催し、10月末には八王子キャンパスで対面での新入生歓迎行事を実施しました。

2 研究活動の戦略的な発展

- 2.1 イノベーションの創発を推進する取組
- 2.2 研究分野におけるパートナーシップの拡大
- 2.3 研究力の発信と社会連携の増進
- 2.4 研究及び実験環境の充実

本学では社会・産業界からのニーズに応える研究活動を推進しており、2020年度は国立研究開発法人科学技術振興機構（以下JST）による研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）「with/postコロナにおける社会変革への寄与が期待される研究開発課題への支援」において2件の採択を受けました。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの研究発信の場が中止となりました。そのような中、本学はWEB開催となった研究発信の場を中心に積極的に参加することで研究力の発信に努めました。

【参加した展示会】

- ・「イノベーション・ジャパン～大学見本市&ビジネスマッチング～」（JST主催）
- ・「新技術説明会」（JST主催）
- ・「おおた研究・開発フェア」（大田区・大田区産業振興協会主催）
- ・「技術懇親会」（りそな中小企業振興財団と工学院大学の共催）

イノベーション・ジャパンにおいては27シーズを出展し、全国国公立大学の中で2番目に多い出展数となりました。会場開催となった多摩信用金庫主催「経営支援セミナー」においては、多摩地域企業の参加者に向け、本学研究者の研究力の発信を行いました。

また、八王子商工会議所とともに開催している「出前研究室」についても、八王子地域の中小企業からのさまざまな相談に対応しました。そして、コロナ禍の中であっても、研究力の発信と社会連携の増進を積極的に実施しました。

3 キャンパス、教育・研究環境の整備

- 3.1 新宿・八王子の地の利、戦略性を生かした教育・研究環境の整備
- 3.2 ダイバーシティに対応した学び、働きやすい環境

2020年夏に新宿キャンパス1階アトリウムの改修工事が完了しました。本施設は常設では日本初となるキネティック・ウォール（可動式の壁）や最新のプロジェクションマッピング装置を備えています。11月には新宿アトリウムでデジタルアートコンペティションの公開審査をWEB配信で実施、本学学生や附属高校生の5組が作品を披露しました。

また、本学在学の留学生に向けたオンラインでの相談会を実施し、学生間のコミュニケーション活性化、サポート強化を図りました。

- 3.3 ITの活用などによる情報環境のグレードアップ
- 3.4 施設・設備の安全管理の徹底環境の充実

学生サービス向上及び業務標準化を目指し、2020年4月から事務基幹システムがリプレイスされました。コロナ禍が重なりましたが、随時対処しつつ予定通り年度始めに稼働しました。伴って更新された学生

用ポータルサイトにおいては、科目の履修登録の際に不足単位数を通知する等の機能が加わりました。

また、遠隔授業の導入に伴い、学内でのネットワーク環境の増強を行いました。安全管理の環境整備に向けて、2020年12月にSD研修を実施しました。本学で前年度発生した事故の紹介に加え、9月に実施したインスペクション（安全衛生点検）での注意点を、根拠となる法令も含めて説明しました。そして、その後の是正対応に繋がることとなりました。

3.5 新型コロナウイルス感染拡大への対応

学生・生徒・教職員・関係従事者等、皆様の安全を最優先し、学内での感染防止対策をおこなってまいりました。

- ・キャンパス入構時の健康チェック
 - 検温サーマルカメラの設置（37.5度以上の場合、入構不可）
 - 学内関係者以外の入構禁止 ※本学より許可された場合を除く
- ・キャンパス入構時のマスク着用徹底、手洗い消毒
 - マスク着用徹底
 - コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」登録推奨
 - キャンパス各所へ消毒液を配置、手洗いの徹底
- ・教室、講義室の環境整備
 - 建物内の十分な換気
 - 座席の間隔あけ
 - 机、椅子、ドアノブ等、清掃・消毒の徹底
 - 実験、実習授業でのフェイスシールド・マスク着用
 - コンピュータ室等での対面シールド板設置
- ・キャンパス構内の衛生環境整備
 - 学内カウンター、食堂等での対面シールド板設置
 - 洗面蛇口を自動水栓へ変更
 - トイレの便座カバー設置

Ⅱ 附属中学校・高等学校

1 変容するグローバル社会で活躍できる人材の育成

1.1 21世紀型教育の進化と深化

2020年度開始のタイミングで新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言が発出されました。本校では以前からICT教育の環境を整えており、中学生は全員がiPadを、高校生はBYODで各自のPCを所持しており、4月13日（月）にはオンラインでのホームルームや授業を開始しました。

教育用SNS等を活用し、教員と生徒間でのコミュニケーションを行い、各教科の指導を進めていきました。このような状況であっても「21世紀型教育」を進めていた本校では、教員も生徒も今まで培ってきたICT活用能力を最大限に発揮して、工夫を重ねながら学びを止めない取り組みを迅速に行いました。6月1日（月）より感染症対策を整えた上で、分散登校を開始し、6月22日（月）に通常登校が再開となりました。

このような状況下でもオンラインを活用し、通常登校開始後もオンラインを活用した海外交流を積極的に行ってきました。高等学校2年生を対象としたGlobal Project（国連が定めたSDGsの17の目標の中からそれぞれの国や地域が直面する課題を学び、その解決に貢献するための取り組みを目指すプロジェクト）では、アメリカ・カンボジア・タイ・沖縄の4か所での実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン等形式を変更し、それぞれの国や地域が直面する課題を学び、解決策を考えることで、多様性への表層的ではない深い理解をすることができました。

1.2 「工学院」ならではの理数教育の充実

1.3 進学指導の充実・強化

高等学校は2018年度より4コース体制となってから、3年経ちました。ハイブリッドサイエンスコースの生徒を中心に、医学部・獣医学部・薬学部などへの合格者も増えてきており、新コースとなってからの教育成果が現れてきました。

理数教育や進学指導の更なる充実をめざし、東京薬科大学と高大連携協定、麻布大学と教育連携及び協力に関する協定を締結しました。

2 キャンパス、教育環境の整備

2.1 大学キャンパスを活用した中高教育の実施

2.2 ICT環境の充実

新型コロナウイルス感染症の影響で、工学院大学のキャンパスを利用した授業・実験等は実施することはできませんでしたが、工学院大学への進学希望者を対象とした学科ガイダンスをオンラインで実施しました。また、2号館ラウンジの利用や部活動での施設利用等は、大学キャンパスの入構規制の緩和に合わせて再開しました。

前述のとおり、ICT環境の充実には以前から取り組んでおり、休校要請の際もオンラインでの教育活動を行うことができました。文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」に合わせてネットワーク環境の増強を実施、屋外にもWi-Fiを設置することができ、体育等の授業でも活用できるようになりました。

Ⅲ 学園全体

1 経済社会のグローバル化への対応

海外協定校と実施しているInternational Symposium on Advanced Technology (ISAT) は、フィリピン大学にて開催予定でしたが、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響で渡航し、対面で実施することができない中、協定校同士で検討し学生の国際学会での発表経験の行えるよう、初のオンライン開催で実施しました。そして、口頭発表・ポスター発表いずれも約60件程度あり、本学からも卒論生・大学院生が発表を行いました。また、海外協定校とのオンラインでの交流を行いました。本学の学生と協定校の学生とで行ったオンライン交流、さまざまな国の英語を学習している学生たちとの交流、協定校の学生などのバディ制での交流など、さまざまなスタイルでの挑戦を行いました。

留学生の受け入れについても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、来日時期が遅延している中、オンラインによる日本語教育を行いました。

また、ニューヨーク国連本部で開催された2020年Peace in the Streets Global Film Festivalにて、附属高校2年生インターナショナルコースの生徒2名による映像作品「The New Stress」がUnited Nation 75th Anniversary Special Awardを受賞しました。

2 パートナーシップ（社会連携）の拡充

3 社会貢献

先進工学部を中心に実施しているIFAEEは「産学連携」というキーワードで実施しています。2020年度には、八王子商工会議所を中心とした連携に加え、本学同窓会である工学院大学校友会との連携を強化しオンラインにて実施しました。オンライン開催とすることで、広く発信することが可能となり、後援会や高大連携関係者へも発信することができました。参加登録者数は約330名で、そのうち約40%（125名）が卒業生・修了生、企業・団体、保護者、高校の参加でした。アンケートの回答も概ね好評であり、技術的な課題の指摘や新たな団体からのコンタクトなど今後への可能性を認識できた機会となりました。

附属中学校1年生の「探究教室」では「八王子プロジェクト」と題して、「ふるさと納税の返礼品に着目して、作り手の想いを知る」ということをテーマに合計8つの企業へ生徒たちがそれぞれ分散して訪問しました。そしてPR動画を作成、2月26日（金）に開催された「第1回映像祭」で披露し、八王子市役所の方にも講評いただきました。

高大連携事業では、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校への教育支援事業として、オンラインシンポジウム（全7回）を実施しました。都立多摩科学技術高校、戸山高校の2校については本学図書館においてアーカイブ化を行い、オンラインシンポジウムで発表された約60件の発表資料について掲載を開始しました。

4 優れたガバナンスと教職員一体による 簡素で合理的・効率的な組織・事務運営

5 将来への投資

中期計画「コンパス2023」において課題としている「事務の簡素・合理・標準化」を推進すべく、2020年4月より新事務基幹システムが稼働しはじめました。新型コロナウイルス感染症の影響により、事務職員も在宅勤務を活用しながら業務にあたる1年となりましたが、この新システムとネットワークインフラを最大限活用し、持続的な学修機会を確保すべく、事務運営の体制整備をはかってまいりました。

また、2018～2023年度の中期計画「コンパス2023」の後半3年度（2021～2023年度）について、計画前半の達成状況や環境変化を踏まえ、より具体的な実施計画として見直すべく、6つのプロジェクトチーム（以下PT、中期計画見直しPT、附属中高PT、新宿リニューアルPT、就職PT、情報環境PT、働き方改革PT）を立ち上げました。各PTによる検討結果内容を踏まえた中期計画「コンパス2023」はウォッチすべき重要経営指標とともに見直しを図り、3月の理事会・評議員会で承認されました。

将来への発展的な投資として、新宿キャンパスアトリウムのリニューアルが完了しました。新設された動く壁（キネティックウォール）などの最新設備の活用がさっそくはじまりました。また、前述のとおり新宿リニューアルPTを立ち上げ、中長期でのキャンパスの在り方を検討しています。

附属中学校・高等学校では、全天候型の半屋外運動施設となる室内練習場が完成し、授業や部活動での利用が始まりました。

6 積極的な発信

ホームページを通じ、コロナ禍での大学の感染防止の取り組み、キャンパス情報や学生サポート情報などを取りまとめ、学生・保護者へ向けたスムーズな通知をおこないました。コロナ禍における感染拡大防止の注意喚起と共に、学生生活の不安払拭への配慮、サポートが必要な学生へ情報を伝える工夫に努めました。

学園魅力の発信では、オンライン・デジタル化が加速する中で、情報の視覚化、写真の強化をはかりました。『みつばちプロジェクト』と『Science Create Project』が企画・制作したはちみつ成分入りハンドクリームと入浴料の魅力・活用イメージが伝わる写真を中心に情報発信を行いました。その結果、東京プリンスホテル（港区・芝）の客室備品に採用という企業コラボレーション実現に繋がりました。また、対面での活動が制限される中、大学のオープンキャンパスや個別相談、附属中学校・高等学校の入試説明会では、オンラインを活用した説明会や相談会を実施し、受験生とのコミュニケーションをはかりました。

決算概要

2020年度決算概要について報告します。

1. 事業活動収入について

- (1) 学生生徒等納付金については、奨学金の拡充などにより、コロナ禍においても退学者増加がなく、前年度より増大した。
- (2) 手数料その他の収入は前年度より減少したが、補助金、寄付金の受入れ額は増大し、事業活動収入全体も前年度より増大した。

2. 事業活動支出について

- (1) 遠隔授業対応、感染防止対策、学費減免などのコロナ対応のための支出があった。
- (2) イベントの中止・オンライン開催、学会渡航・出張の大幅減少、オンライン授業の活用等による光熱費の低減などにより、全体の経費支出は前年度より減少した。

3. 収支状況について

- (1) 教育活動収支差額は前年度のマイナスから、2020年度はプラスに転換した。
- (2) 基本金組入前当年度収支差額もプラスを計上した。

4. 設備投資などについて

新宿キャンパス・アトリウム改装工事、業務基幹ITシステム刷新の投資案件が2020年度に完了し、経費および資産の取得に計上された。

事業活動収支計算書

(単位:百万円)

教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	9,616
		手数料	454
		寄付金	99
		経常費等補助金	1,565
		付随事業収入	360
		雑収入	312
		教育活動収入 計	12,406
	事業活動支出の部	人件費	5,711
		教育研究経費	5,322
		管理経費	895
		徴収不能額等	0
		教育活動支出 計	11,928
		教育活動収支差額	478
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	35
		その他の教育活動外収入	100
		教育活動外収入 計	135
	事業活動支出の部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出 計	0
		教育活動外収支差額	135
		経常収支差額	613
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	113
		特別収入 計	113
	事業活動支出の部	資産処分差額	571
		その他の特別支出	61
		特別支出 計	632
		特別収支差額	△ 519
		[予備費]	-
		基本金組入前当年度収支差額	94
		基本金組入額合計	△ 446
		当年度収支差額	△ 352
		前年度繰越収支差額	△ 547
		基本金取崩額	345
		翌年度繰越収支差額	△ 554
		(参考)	
		事業活動収入 計	12,654
		事業活動支出 計	12,560

※百万円未満四捨五入

学生生徒等納付金	授業料、入学金、教育充実費、実験実習料等
手数料	入学検定料、証明手数料等
寄付金	学園振興資金寄付金、指定寄付金、奨学寄付金等
経常費等補助金	国庫補助金、地方公共団体補助金等
付随事業収入	受託事業収入、収益事業からの繰入収入等

人件費	教員人件費、職員人件費等
教育研究経費	教育研究活動に直接支出される経費、勉学環境の維持費用等
管理経費	学生募集経費、その他管理部門の経費

■ 資金収支計算書

(単位:百万円)

収入の部		支出の部	
学生生徒等納付金収入	9,616	人件費支出	5,748
手数料収入	454	教育研究経費支出	3,179
寄付金収入	97	管理経費支出	771
補助金収入	1,565	借入金等返済支出	0
資産売却収入	0	施設関係支出	640
付随事業・収益事業収入	460	設備関係支出	655
受取利息・配当金収入	35	資産運用支出	1,610
雑収入	286	その他の支出	765
借入金等収入	0	[予備費]	-
前受金収入	1,862	資金支出調整勘定	△ 468
その他の収入	403	翌年度繰越支払資金	3,959
資金収入調整勘定	△ 1,972		
前年度繰越支払資金	4,053		
収入の部 合計	16,859	支出の部 合計	16,859

※百万円未満四捨五入

■ 貸借対照表

(単位:百万円)

科目	年度末	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
		決算額	決算額	決算額	決算額	決算額	決算額
資産の部	固定資産	67,529	67,962	70,618	71,297	73,116	73,083
	流動資産	9,259	9,967	8,883	8,136	4,308	4,328
	資産の部合計	76,788	77,929	79,501	79,433	77,424	77,411
負債の部	固定負債	3,720	3,648	4,196	3,950	3,705	3,521
	流動負債	3,979	4,053	4,243	4,350	2,694	2,771
	負債の部合計	7,699	7,701	8,439	8,300	6,399	6,292
純資産の部	第1号基本金	62,199	66,470	65,564	66,384	67,874	67,575
	第2号基本金	4,087	6	1,706	2,006	2,406	2,806
	第3号基本金	581	581	581	581	581	581
	第4号基本金	711	711	711	711	711	711
	翌年度繰越収支差	1,512	2,460	2,500	1,451	△ 547	△ 554
	純資産の部合計	69,090	70,228	71,062	71,133	71,025	71,119
負債の部及び純資産の部合計	76,788	77,929	79,501	79,433	77,424	77,411	

※百万円未満四捨五入

学校法人会計の計算書類について

■ 事業活動収支計算書

当年度の事業活動収入と事業活動支出の内容及び収支の均衡を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であることを示すものです。企業会計の損益計算書に相当します。

■ 資金収支計算書

当年度の教育研究活動に対応するすべての資金の収入・支出の内容を明らかにし、支払資金の収支の顛末を明らかにするものです。消費収支計算書にない施設設備投資額が含まれます。企業会計のキャッシュ・フロー計算書に相当します。

■ 貸借対照表

一定時点(決算日)における資産及び負債、基本金、事業活動収支差額の内容・有り高を明示し、学校法人の財務状況を明らかにするものです。

建学の精神

「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工』の精神とグローバル展開」

工学院大学は、工業化が急ピッチで進む1887(明治20)年の開学以来、「製造業などの発展に伴う社会・産業界のニーズ」と「最先端の工学研究という学問の発展」をつなぐ専門性の高い技術者育成の場として、10万人を超えるものづくりの担い手を世の中に送り出してきました。

グローバル化がますます進展する21世紀社会においても、「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工』の精神」を深化・発展させ、事業・実務でリードし、科学技術立国・日本における21世紀型ものづくりを支える理工系人材の育成及び先端領域で創成能力を発揮する高度な技術者・研究者を育成する拠点として成長し続けます。

学園の沿革

1887(明治20)年 10月31日	帝国大学総長渡辺洪基を中心として工手学校設立協議会を開き、設立趣意書を発表
1888(明治21)年	工手学校開校式を挙行、築地にて授業を開始
1928(昭和 3)年	東京市淀橋町大字角筈(現新宿敷地)に新校舎が竣工 工学院と名称変更
1944(昭和19)年	工学院工業学校を設置、工学院工業専門学校を設置
1945(昭和20)年	工学院工業学校を工学院第一工業学校と名称変更
1946(昭和21)年	工学院第二工業学校を設置
1947(昭和22)年	工学院第一中学校、第二中学校を設置
1948(昭和23)年	学制改革により、新制高等学校として工学院高等学校を設置(第一、第二工業学校は廃止) 工学院第一中学校を工学院中学校に名称変更(第二は募集停止)
1949(昭和24)年	工学院大学を設置(工学部 第一部(昼)・第二部(夜)) 工学院大学開設に伴い「工学院大学中学校」、「工学院大学高等学校」と名称変更 工学院を工学院専修学校と名称変更
1950(昭和25)年	工学院工業専門学校を廃止、工学院大学短期大学部を設置
1951(昭和26)年	工学院専修学校を工学院大学専修学校と名称変更
1956(昭和31)年	工学院大学短期大学部を廃止
1958(昭和33)年	工学院大学中学校を廃止 工学院大学に工学専攻科を設置
1963(昭和38)年	八王子市中野町に八王子キャンパスを開設
1964(昭和39)年	工学院大学に大学院工学研究科修士課程を設置
1966(昭和41)年	工学院大学に大学院工学研究科博士課程を設置
1977(昭和52)年	工学院大学専修学校を工学院大学専門学校に名称変更
1986(昭和61)年	工学院大学第二部を募集停止
1989(平成 元)年	新宿キャンパスに高層棟が竣工
1991(平成 3)年	工学院大学第二部の学生募集再開
1992(平成 4)年	工学院大学高等学校を「工学院大学附属高等学校」と名称変更 新宿キャンパスに中層棟・オフィス棟が竣工
1995(平成 7)年	新宿キャンパスに工学院大学エステック広場が落成
1996(平成 8)年	工学院大学附属中学校を再開
2001(平成13)年	八王子市中野町に中学校新校舎が竣工
2002(平成14)年	附属中学校・高等学校を男女共学化
2006(平成18)年	学部改組により情報学部及びグローバルエンジニアリング学部を設置 八王子市中野町に高等学校新校舎が竣工
2009(平成21)年	工学院大学専門学校を廃止
2011(平成23)年	学部改組により建築学部を設置
2015(平成27)年	学部改組により先進工学部を設置、グローバルエンジニアリング学部及び工学部第二部の募集停止

創 立 者

渡 辺 洪 基



プロフィール

1847(弘化4)年福井県生まれ。24歳で岩倉具視遣外使節団に随員として加わって以来、外交官、東京府知事、衆議院議員等を歴任。1886(明治19)年に39歳で初代帝国大学(現在の東京大学)総長となり、産業発展のためには実践的技術者育成が急務と痛感し、翌1887(明治20)年、東京築地に工学院大学の前身である工手学校を設立。明治以降の我が国の工業化の礎を築いた。

設置する学校の内容

(2020年5月1日現在 単位:人)

学校名	学部・学科名等	入学定員	入学者数	編入学者数	収容定員	在学者数	
大学院	工学研究科博士後期課程						
	機械工学専攻	3	1	-	9	3	
	化学応用学専攻	3	2	-	9	12	
	電気・電子工学専攻	3	2	-	9	5	
	情報学専攻	3	0	-	9	2	
	建築学専攻	3	0	-	9	10	
	大学院						
	工学研究科修士課程						
	機械工学専攻	70	76	-	130	138	
	化学応用学専攻	50	42	-	100	103	
	電気・電子工学専攻	60	58	-	100	101	
	情報学専攻	30	22	-	60	43	
	建築学専攻	60	65	-	120	111	
	システムデザイン専攻	10	6	-	30	13	
大学院合計		295	274	-	585	541	
先進工学部	生命化学科	70	74	-	280	283	
	応用化学科	95	103	-	380	364	
	環境化学科	70	75	-	280	286	
	応用物理学科	65	64	-	260	252	
	機械理工学科	65	69	-	260	267	
	合計	365	385	0	1,460	1,452	
工学院大学	工学部						
	機械工学科	154	147	0	602	614	
	機械システム工学科	105	108	1	410	428	
	応用化学科*1	-	-	-	-	7	
	環境エネルギー化学科*1	-	-	-	-	6	
	電気電子工学科*3 (旧:電気システム工学科)	120	120	2	470	470	
	情報通信工学科*2	-	-	-	-	25	
	合計	379	375	3	1,482	1,550	
	学部						
	工学部第2部*1						
	建築学科*1	-	-	-	-	1	
合計	0	0	0	0	1		
建築学部							
まちづくり学科	85	84	1	335	372		
建築学科	145	148	0	560	561		
建築デザイン学科	115	117	0	450	493		
合計	345	349	1	1,345	1,426		
情報学部							
情報通信工学科	90	86	-	360	329		
コンピュータ科学科	90	102	-	360	375		
情報デザイン学科	70	63	1	280	310		
システム数理学科	60	63	1	240	233		
合計	310	314	2	1,240	1,247		
グローバル エンジニアリング学部*1							
機械創造工学科*1	-	-	-	-	1		
合計	0	0	0	0	1		
学部合計	1,399	1,427	6	5,527	5,677		
大学合計	1,694	1,697	6	6,112	6,218		
工学院大学附属高等学校	全日制課程	普通科	290	288	1	870	746
工学院大学附属中学校			105	101	2	315	264
総合計		2,089	2,086	8	7,297	7,228	

※1 2015年度募集停止

※2 2016年度募集停止

※3 2017年度名称変更

教職員数推移

(2020年5月1日現在 単位:人)

	2016年5月	2017年5月	2018年5月	2019年5月	2020年5月
大学教員	230	231	223	225	229
中高教員	64	65	63	61	63
職員	142	138	131	130	131
合計	436	434	417	416	423

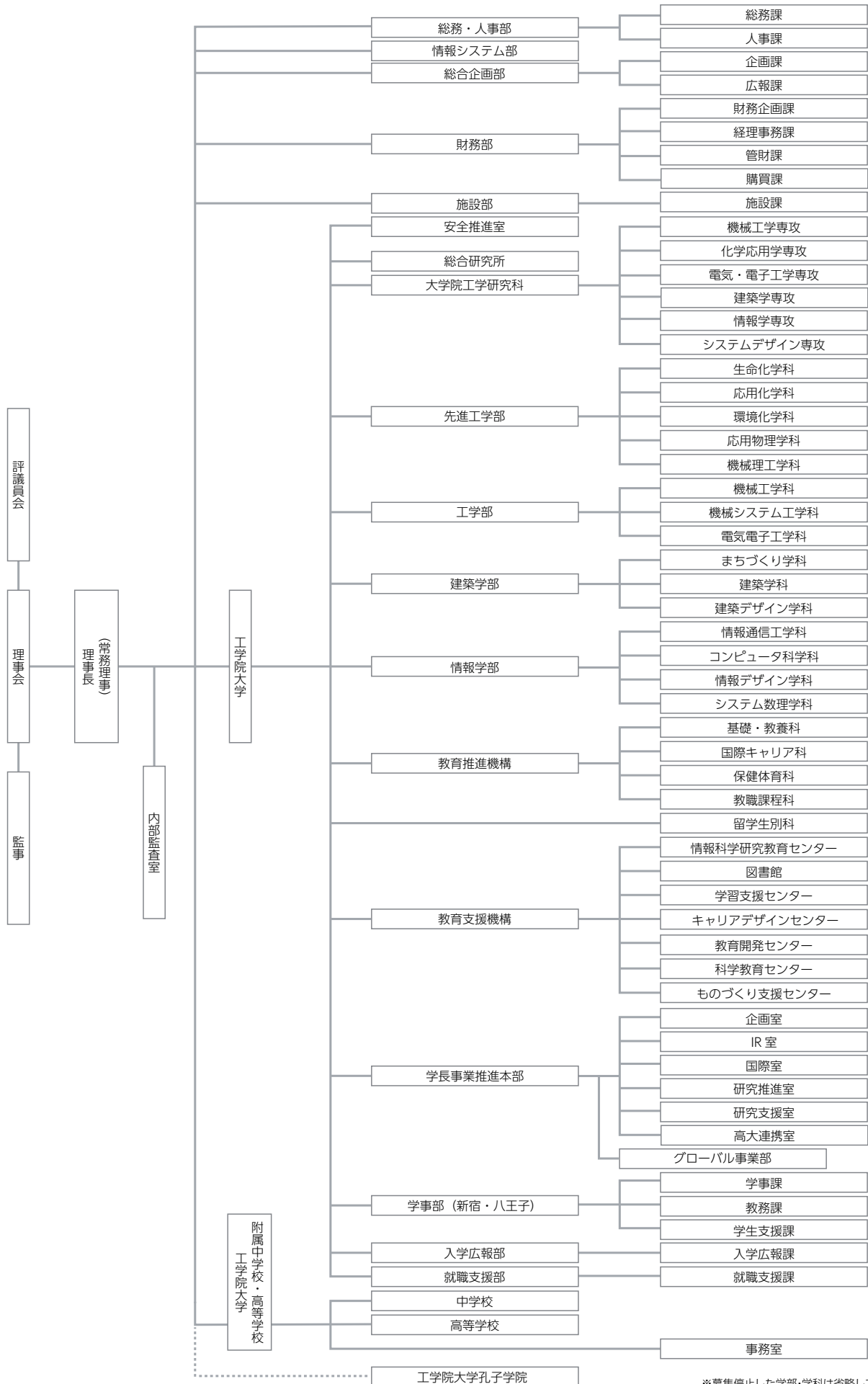
※大学教員：教授、准教授、講師、助教、特別専任、特任、学習支援センター、実習指導員

※中高教員：専任教員(教諭)、嘱託専任講師

※職員：専任職員、嘱託職員(学生職員は含めない)

組織図

(2021年3月31日現在)



※募集停止した学部・学科は省略しています。

理事・監事

理事長	後藤 治	
常務理事	玉川 雅之	
常務理事	三重野 浩	
理事	佐藤 光史	大学学長
理事	今村 保忠	大学副学長
理事	田野邊 幸裕	非常勤理事
理事	小澤 英明	非常勤理事
監事	久慈 英樹	
監事	松本 香	

■理事定数：6人以上9人以内
■監事定数：2人

(2021年3月31日現在)

■理事現数：7人
■監事現数：2人

評議員

次に掲げる定数32人の評議員をもって評議員会を組織している。ただし、(4)に掲げる者が(4)の役職を兼務するときは、評議員の定数は32人から兼務数を減じた数とする。

(1)専任の教員、職員のうちから	10人
(2)満25歳以上で法人人の設置する学校及びその前身である学校の卒業者のうちから	10人
(3)有識者のうちから	10人
(4)大学後援会、中学・高等学校PTAの各会長	2人

■評議員現数：32人 (2021年3月31日現在)

校地の所在地 キャンパスと施設

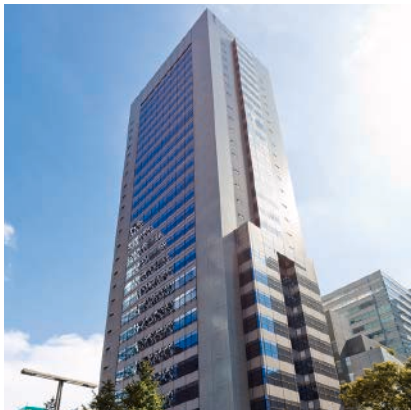
■キャンパス紹介

新宿キャンパス

6,414㎡

〒163-8677
東京都新宿区西新宿一丁目24番2号

(収益事業)エステック株式会社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号



八王子キャンパス

235,991㎡

〒192-0015
東京都八王子市中野町2665番地1
(犬目キャンパス)
〒193-0802
東京都八王子市犬目町139番地



附属中学校・高等学校

23,209㎡

〒192-8622
東京都八王子市中野町2647番地2



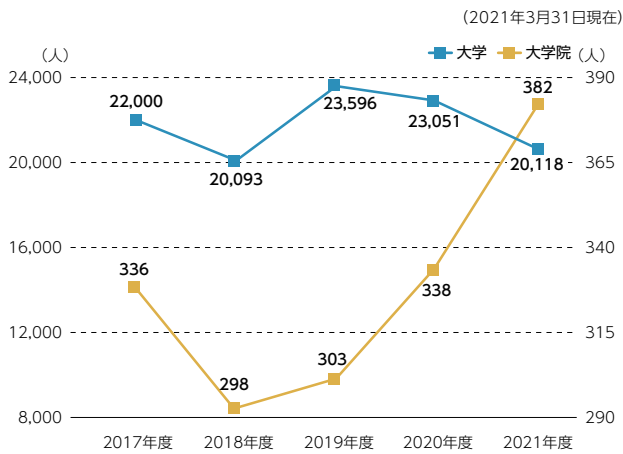
■その他施設

富士吉田セミナーハウス

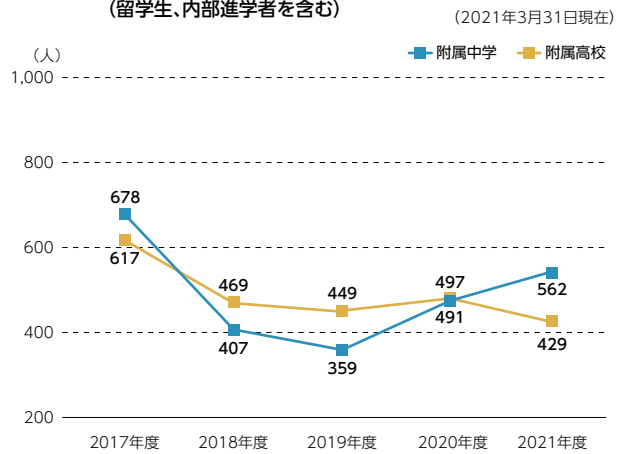
〒403-0006
山梨県富士吉田市新屋1311-1

志願者数 (推薦を含む)

大学・大学院

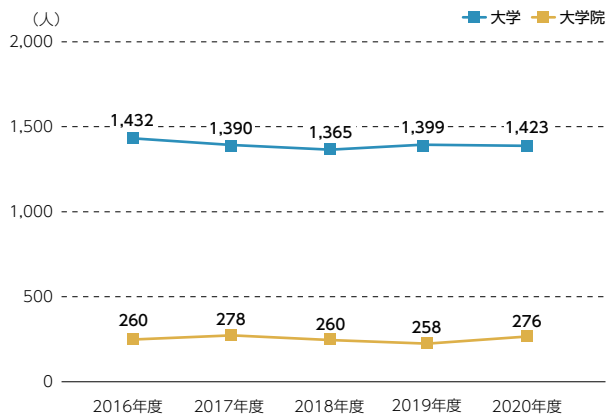


附属中学校・高等学校

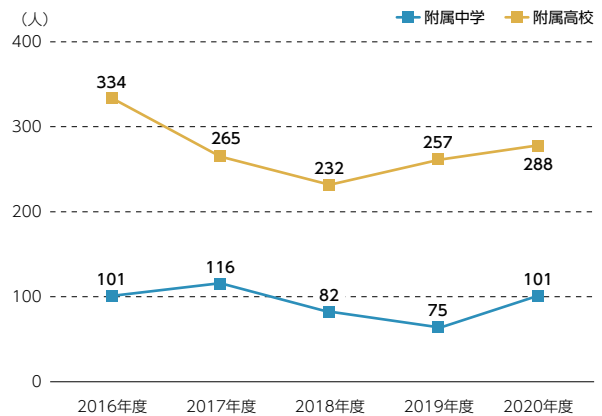


入学者数 (編入学者を除く)

大学・大学院

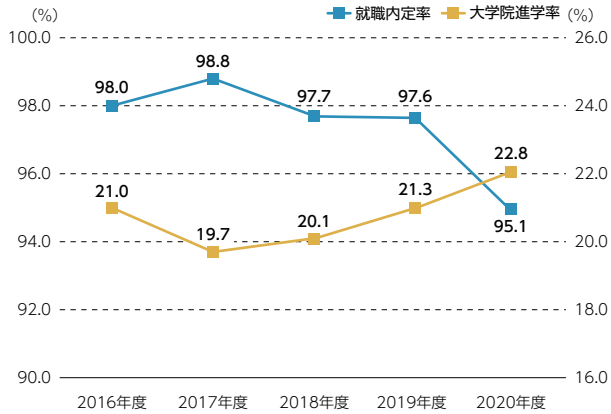


附属中学校・高等学校



卒業後の進路

■大学・大学院

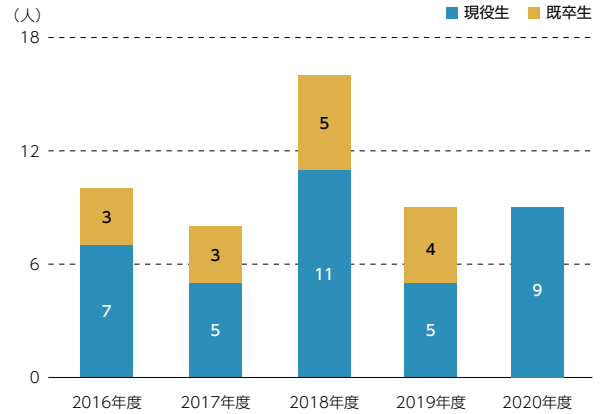


※就職内定率=内定者数/就職希望者数(第2部を除く)

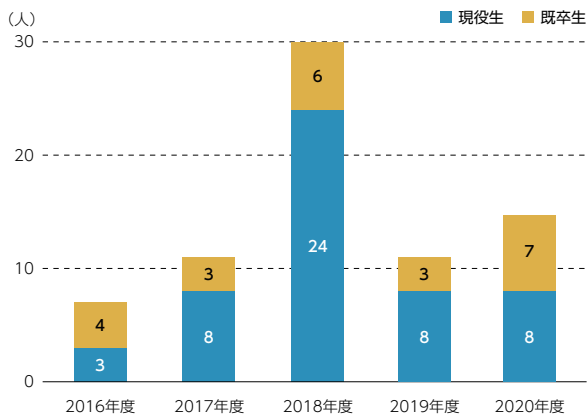
※大学院進学率=大学院進学人数/学部卒業人数(3月卒業生、第2部を除く)

■附属中学校・高等学校

<国公立大学合格者数>

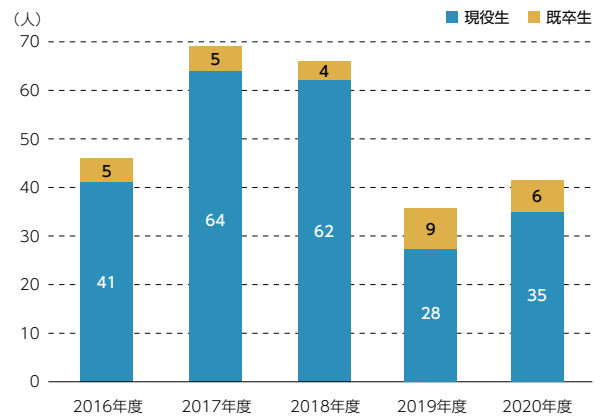


<難関私立大学*合格者数>



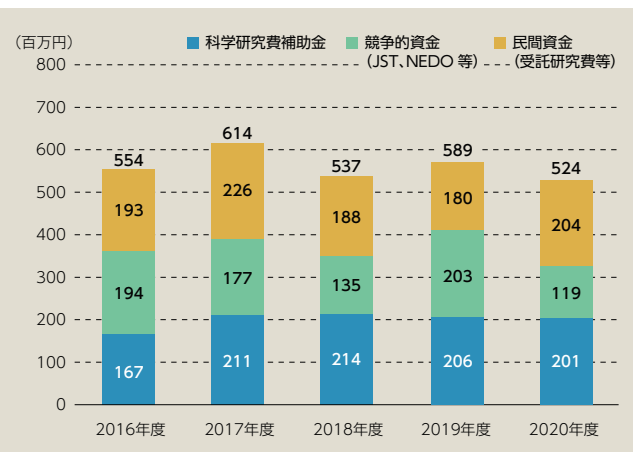
*早稲田、慶應義塾、上智、東京理科、ICU

<GMARCH**合格者数>



**学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政

外部資金獲得状況(決算額)



※百万円未満四捨五入



学校法人 **工学院大学**

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1丁目24番2号

電話 03(3342)1211(代表)

URL <https://www.kogakuin.ac.jp/>